

IPT2024 第一次審査講評

IPT にはさまざまな国と地域からポスターが集まってくる。その応募作品の梱包が開けられる瞬間、紙やインクの匂いがふわっと流れ出るという。そこには、それぞれ異なった土地の紙やインクの匂いだけではなく、ポスターが制作されたスタジオの空気や、そこにいる人が嗜む煙草や香水の匂いも混ざっているかもしれない。制作現場の雰囲気、スタジオの思想みたいなものまでもが紙の匂いにうつりこみ、背景にある印刷の文化も含めて、審査員の前に届けられているのではないか。ポスターが生まれた場所に想いを馳せた。

そのような文化や価値と個人の持っている固有性のようなものが、ポスターには如実に現れる。1枚1枚の背景にある思想やメッセージに耳を傾けながら、投票と協議を慎重に、そして姿勢はポジティブに審査へと臨んだ。

応募作品全体は、技術的には向上し、IPTの回を重ねるごとに洗練されている印象がある。オン・スクリーンメディアが隆盛の時代、デジタルの流れを経て再びポスターとしての表現に回帰する志向がある一方、映像を想像させる表現があることも興味深い。現在はデジタルでの制作が主流なのだろうが、その中であって、紙との相性が良い表現を探るなど、印刷物としての物質感をどう出していくかを考えている人が多いという印象を受けた。

テーマという点では、やはり強いメッセージが込められた作品は目を惹きつける。時代を映すポスターにおいては、例えば「NO WAR」「戦争反対」、海洋プラスチックの問題など、政治や社会の状況は否応なく絡んでくる。このようなテーマ自体にメッセージ性があるポスターに深みがあると捉えがちだが、それは少し違う。単純に幸せな雰囲気や詩情が漂うポスターにも、何か語りかけてくるような独特の深みがある。

自主制作部門(紙媒体B、U30+Student)のテーマ「Think ()」は、技術的な面だけではなく、作り手としてのデザイナー、クリエイターが考えていることや、その深さが問われる難しいテーマであったと思う。応募者が何を考えて制作したかを読み取っていく過程に、審査員も頭を使ったが面白味もある。考える人の姿や脳といった直接的なイメージを提示した作品も多かったが、入選となったポスターには制作者それぞれのメッセージがあった。

これは付記であるが、完成度が高くても、クレジット記載などの応募規定を満たしていない作品が少なからずあり、残念だった。吟味して応募されたポスターを、公正に、公平に選ぶということも、審査員の役割であろう。

ポスターにはやはり考えさせる力があると思う。ビジュアルのインパクトが余韻として残り、見る側を立ち止まらせる滞空時間にもう一段ぐっとさせる作品もある。視覚的な強さとは別軸の、そのような深さがある作品はより強い。

ポスターはリアルにペーパープロダクトだが、近年のコンペティションは、実物を介さないデジタルとオンラインでの実施が増えている。そもそも、原寸に出力せずに制作する人も多いかもしれない。表現はデジタルであっても「このポスターは、このビジュアル、このメッセージ、このサイズ、この紙、この印刷手法でなくてはならない」という答えを出していくなかでポスターの魅力がうまれるのではないか。それに対峙していく良さが、実物での審査にはある。

制作の背景がそれぞれ全く違うポスターが集まる IPT という場はとてもユニークで緊張もあるが、その審査は不思議な体験だ。媒体としてのポスターの力は少し弱まっているのかもしれないが、テーマと表現の豊かさが、グラフィックデザインの面白さを実感させる。かつてのポスターの概念のようなものは着々と変化しているが、ポスターの魅力は衰えていないと思うことだろう。

※2024年4月17日の第一次審査終了時に、8名の第一次審査員各氏より審査講評について意見交換・聞き取りを行った内容を、富山県美術館にてまとめました。

IPT2024 入選決定の過程について

応募作品の第一次審査は、以下の手順にて選考をすすめた。

【U30+Student 部門の事前審査（応募締切～2024年3月31日）】

全応募作品のデータに対し、クレジット記載など応募規定を満たしているかを事務局で事前確認。規定を満たした有効応募 1,557 点に対し、第一次審査員 8 名が持ち票 150 点以内で各自投票。事務局で集計をおこない、4 票以上獲得の 29 点を実寸の B1 サイズ、3 票獲得の 40 点を簡易版の A3 サイズで出力にて、事前審査通過作品とした。

【審査 1 日目（2024年4月16日）】

- ① 紙媒体 A 部門入選候補の選出：審査員が応募作品の実物を実見し、入選にふさわしいと思われる作品に各自が投票。審査員全員で得票数にかかわらず全作品を再見し、協議をおこない、入選候補 456 点を選出。

【審査 2 日目（2024年4月17日）】

- ② 紙媒体 B 部門入選候補の選出：紙媒体 A 部門と同様の審査過程を経て、入選候補 49 点を選出。
- ③ U30+Student 事前審査通過作品からの入選候補選出
事前審査通過作品に対し、紙媒体 A,B 部門と同様に協議を行い、入選候補 40 点を選出。
- ④ 全入選候補作品の総見、入選作品の選出
全審査員協議により、まず紙媒体 A 部門入選候補 456 点に対し、入選として残したい作品に対して持ち票制限なしで投票。再見と協議を行い、A 部門 304 点を最終入選候補とした。また、B 部門、U30+Student の入選候補作品に対しても、再見のうえ協議を行い、B 部門 49 点、U30+Student 部門 40 点を最終入選候補とした。

【第一次審査後の確認】

第一次審査で選出された全 393 点に対し、制作年など応募規定違反の有無を事務局側で最終確認を行い、A 部門 301 点、B 部門 49 点、U30+Student 部門 40 点を入選作品とした。